



1. グループ討議 1「地域気候変動適応センター設立に向けて、センターが備えるべき具体的な機能とその理由の抽出」でのグループ発表の内容

グループ1	機能①	情報収集のシステム	モニタリング、地域の知的財産の整理
	機能②	情報発信	将来予測の精度向上、専門性、わかりやすく伝える機能
	機能③	県と市町村の連携システム	個別の自治体であり方は違うが、有機的な連携が必要
グループ2	機能①	庁内の横断的な組織への情報提供	専属で適応に関する情報収集をして、他部局へ説得力のある情報を発信
	機能②	民間への発信	地域への知識の普及
	機能③	地域レベルの分野毎のデータのとりまとめ	データを一括管理して地域版のA-platを作れる組織
グループ3	機能①	情報の収集・発信	庁内・関連機関にある情報を集めて、科学的な分析に基づいて市民、事業者向けに発信する機能
	機能②	将来予測	地域適応センターで行ってほしい
	機能③	他機関（庁内、NIES等）との連絡調整機能	市町村と県との連携も検討が必要
グループ4	機能①	情報収集	地域ごとの詳細な情報を収集する
	機能②	①で集めた情報発信	情報が必要な人に確実に伝えられるようにする
	機能③	人材育成	行政では人事異動があるので、継続的に①②を行える人材の育成
グループ5 ※市で構成のグループ： 県からの最大限の支援を希望	機能①	地域の影響評価・将来予測	--
	機能②	ニーズに即した研究	関係部局から研究テーマを募って対応できるような体制
	機能③	人材育成	気候変動に関する情報は難しいため、一義的に翻訳して市民、事業者、庁内に向けて伝えるために必要なキャパシティビルディング
グループ6	機能①	地域ごとの適応ニーズの洗い出し/ニーズの発信	地域ごとに風土や産業構造が異なるため、マッチするものが欲しい
	機能②	気候変動予測・影響評価情報の収集	1に必要な情報を収集する。地域センターが独自に影響評価を行うのは無理だが、適応策を検討する際に必要な情報であるため
	機能③	庁内における理解促進と適応を議論するための人材育成	外部に広げる前に、内部の部局に適応の必要性を理解してもらうことが重要。説明できる人材も必要
グループ7	機能①	ネットワーク作り	都道府県、市町村、機関、大学とネットワークを構築したうえで情報を収集する
	機能②	情報収集	適応推進には科学的知見に基づく情報が必要
	機能③	情報の発信	適応推進は行政だけでできるものではないので、住民事業者にわかりやすくかみ砕いて発信する機能
グループ8	機能①	情報の収集	庁内や地域で適応を検討するのに有用な情報が埋もれている場合があるので、これを整理することが重要
	機能②	情報の発信	政治的なものへの対応・事業者への説得のために、一定程度の学術的知識のある人による説得力のある情報を発信
	機能③	コーディネーター機能	庁内、市町村と一緒に課題を考える機能



3. グループ討議 2 「地域適応センターの具体的な機能のうち最も関心の高かったもの3つについて、これらを備えるために考えられる問題点と解決策」でのグループ発表の内容

グループ 1

コーディネーター機能やネットワークづくりは、そもそも法律上適応センターが担うべき業務か？

「情報の収集と配信」問題点	解決策案
(インターネットでの情報発信、国環研への発信は行わすが、情報収集と提供は行政に向けたものとして) 人材育成	情報を収集できる人間(コーディネーター機能やネットワークにもかかわるが) 公的な資格保持者や国環研で研修を行った人間を公な立場で名乗れるようにして、そうした方々に担っていただく
「コーディネーター機能」問題点	解決策案
--	--
「ネットワーク作り」問題点	解決策案
--	--

グループ 2

「情報の収集と配信」問題点	解決策案
情報を見てもらうには必要な情報をわかりやすく提供する	ニーズを把握するための手法やツール 事業者からの情報なら経済界の集まりなどの情報を収集するなど
難しい言葉をわかりやすく説明する	説明できる専門家が必要 専門家がいないければ、ネットワークづくりに励む
「コーディネーター機能」問題点	解決策案
市民と行政、市民と事業者、市と県など、様々なコーディネートがあるが、それを行う人材育成が課題	育成するためのシステム・プログラムの開発
「ネットワーク作り」問題点	解決策案
ネットワークを作るための起点/始点をどのように見つけるか？	ワークショップの参加者の中から地域のリーダーを指定地方の大学を巻き込む 環境省地方事務所に地域のネットワークづくりの一役を担って頂きたい



グループ 3

「情報の収集と配信」問題点	解決策案
不確実性やデータの用途がデリケートであり難しい	計算方法やシナリオに基づくことを明示する 難しくしないよう、相手のレベルに合わせた情報の出し方にする
どこにどんな情報があるかわかっていない	ネットワークを作る
情報の品質管理が難しい	一括で情報を管理できるものがあればよい
「コーディネーター機能」問題点	解決策案
人材教育ができないと機能が生まれない	人材教育のシステムを全国統一で開発
人材育成にかかる費用の問題	適応策の効果を定量的に示せればお金もついてくるか？
「ネットワーク作り」問題点	解決策案
縦割り習慣が強い	適応策のメリットを伝えることで、ネットワーク作りに協力
ネットワーク作りに時間がかかる。	省庁間の連携によるトップダウンも必要

グループ 4

「情報の収集と配信」問題点	解決策案
他分野にわたるため、そもそもどんな課題があるかわかりづらい	庁内部局に協力を求める
	民間からの情報提供
	情報収集の主な収集源が A-PLAT なので、学会情報を地域に提供してもらいたい
県のHPではステークホルダーに伝わらない	庁内・県民への適応策の周知
	ニーズを把握してステークホルダーに直接届ける
「コーディネーター機能」問題点	解決策案
ステークホルダーを把握できていない。	育庁内部局・市町村・企業と勉強会をし、ステークホルダーを把握する
企業・関係者とのつながりがない	関係機関から関係団体を紹介してもらい、コーディネートする
分野が広く幅広い知識が必要	分野別相談先一覧があるとありがたい
「ネットワーク作り」問題点	解決策案
コーディネーター機能の問題点	--
「ステークホルダーを把握できていない」	
「企業・関係者とのつながりがない」と共通	



グループ 5

「情報の収集と配信」問題点	解決策案
専門的な知識をかみ砕いて伝える	わかりやすく伝えるために、市民に身近なものを取り上げる、可視化、ストーリー建てで伝える。
「コーディネーター機能」問題点	解決策案
人材確保	人材の取り合いになってしまうので、各機関の役割分担を明確にする 付属機関の委員の方を集めると知見を集めることも可能
「ネットワーク作り」問題点	解決策案
関心が低い部局を巻き込む	各省庁から適応についての情報発信をする

グループ 6

「情報の収集と配信」問題点	解決策案
情報が専門的過ぎて、センターできちんと理解できない	A-PLATからの情報を地域で使えるかどうかをフィードバックして A-PLAT が改善を図る
誰に対して情報発信をするか？	ニーズを把握し、ニーズに合わせた発信を心がける
ネガティブな情報（土地価格が下がる等）をどう伝えるか？	現時点で解決策は思いつかない
「コーディネーター機能」問題点	解決策案
人材・専門家がない	行政担当者自身がスキルアップを心がける 若手研究者で現場の実務をわかる人を受け入れる
行政職には異動があるため、継続性を損なう	研究職や専門職といった職種を手当てする 広域協議会でコーディネーター機能を担う
「ネットワーク作り」問題点	解決策案
運営が大変	仕組みを作ってしまうと、メーリングリスト等を活用するなどして運営は可能
どこの市町村まで巻き込むか	問題意識の高い自治体から仲間にしていく

